

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 II IV 】
2 実施対象者	学校名 成田市立久住小学校 対象学年 全校 人数 児童：357人 中学生：49名（久住中学校1年生） 保護者：25名 地域ボランティア：22名 ALT：3名（本校職員除く） 他機関協力者：9名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間、国語科、社会科、英語科、外国語活動、道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	成田に育つ子どもたちが、国外にも視野を広げられるように、自国の文化や伝統に対する理解を図るとともに、積極的に他国の方とコミュニケーションを取り、よりよい関係を構築しようとする気持ちを育てる。
5 取組内容	<p>【国際交流学習(1、2年生・中学1年生)～買い物しよう～】</p> <p>1年生から4年生は、外国語活動として週に2回20分の授業を実施している。その中で、買い物の場面を取り上げ、コミュニケーション能力の向上を図る取り組みを行った。買い物学習を行うことで必然的に客役と店員役とのやりとりが生まれることから、双方の立場の言葉を学習した。そのまとめとして中学生、保護者、地域住民、ALTを招き、体育館で学習を行った。あらかじめ、中学生や保護者には、やりとりの例を知らせておき、小学生の補助を依頼</p> 

した。

当日は、1年生、2年生がそれぞれの学年の授業で学習した構文を利用し、買い物学習に取り組んだ。活動の場が広がったこと、参加者が多くなったことで、学級で行っている授業よりも、意欲的な活動が見られた。中学生、保護者等からの適度な支援が効果的で、小学生は、英語でのやりとりを楽しむことができた。



【国際交流学習(5年生)～成田空港でインタビュー～】

5年生から英語科授業として、週に20分の授業を2回、45分の授業を1回実施している。社会科の運輸の学習としての成田空港の見学と絡めて、空港で外国人とコミュニケーションを図る学習を設定した。

英語科の学習で、外国の文化に触れ、日本の文化との共通点や相違点を知っていく中で、空港でのインタビューの内容を考えていった。「どこの国から来たのか」に加え、「何をしに来たのか」、「日本の印象は」、「日本とあなたの国との違いは」といったものが挙げられ、実際に空港でインタビューをした。



質問に対し、英語でわかりやすく返答してくれたときには、理解できていたが、単語を知らなかったり、話すスピードが速かったりした場合には、聞き取ることができないということもあった。また、空港には、英語圏の方ばかりではなく、様々な国の方がおり、英語ではコミュニケーションが取れないこともあった。

この経験から、子どもたちは英語でのコミュニケーションの楽しさや難しさを体感するとともに、世界の広さについても感じる事ができた。

【国際交流学習(6年生)～成田表参道でインタビュー～】

上記の5年生での空港でのインタビューの経験を生かし、6年生では成田表参道の外国人観光客にインタビューを行う学習を設定した。

外国人をもてなす気持ちを表すために、日本の文化を伝えたいということから、英語科や総合的な学習の時間に日本の伝統文化について考える機会を設けた。子どもたちは話し合いの中から、自分た

ちの身の回りにある伝統文化を取り上げてインタビューすることにした。具体的に児童からだされたものは、「習字」、「城」、「将棋」、「剣道」、「けん玉」、「あやとり」、「日本そば」などであった。

参道ではグループごとに歩いている外国人に声をかけ、実物や写真を見せて、知っているかどうかを尋ねたり、紹介したりした。また、「けん玉」や「あやとり」については、「Let's play together!」と声をかけ、外国人に挑戦してもらおうというグループもあった。

物や写真を介したことで、言葉がはっきりと伝わらなくても、身振りや手振りを使い、相互に意思を伝え合うことができ、コミュニケーションを楽しむことができた。同時にさらに英語で言葉としてのコミュニケーションを取りたいという意欲にもつながった。



【伝統文化体験】

〈牛馬作り体験（6年生）〉

地域の方を講師とし、本校周辺の水田地帯に伝わる伝統的な「牛馬作り」体験を行った。「牛馬」とは、豊作や健康を願い、真菰という植物を編んだり組み合わせたりして作るもので、一つ一つの工程を教わりながら作り上げた。地域のお年寄りとの交流を通しながら、稲作への思いや、地域の環境について学ぶことができた。



〈茶道体験（6年生）〉

外部講師を招き、茶道体験を行った。茶道の歴史を教わるとともに教室に小さな茶室を設置し、児童全員が実際にお茶を点てる体験をした。所作の一つ一つに意味があることを知り、日本の伝統に触れることができた。



6 主な成果

- ・学校で行っている外国語活動、英語科の学習の新たなめあてとしてオリンピック・パラリンピックを活用することができた。
- ・子どもたちにとって「おもてなし」という言葉の響きが、外国人

	<p>とコミュニケーションを取る際に、相手のことを考えることにつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年の児童にとっては、外国の文化を知り、理解しようとするに加え、日本の文化（伝統文化を含め）を改めて見直そうとする機会となった。 ・学校外での国際交流学習を行うことで、英語圏以外の国に目を向けられる児童が増えた。
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>【国際交流学習(1、2年生・中学1年生)～買い物をしよう～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイナミックな活動になるように、広い体育館に多くの店、多くの品物を用意した。 ・学年、学級の児童同士の関わりだけで収まらないように、中学生や保護者、地域住民を入れることで、多くの人と関わる場を設定した。(中学校が近い、保護者及び地域ボランティアが盛んという条件を生かした。) <p>【国際交流学習(5年生)～成田空港でインタビュー～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が成田空港に近いという利点を生かし、社会科の空港見学を取り入れていたが、それと併せて同じく空港での実際に外国人と関わる学習を取り入れた。 <p>【国際交流学習(6年生)～成田表参道でインタビュー～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成田駅まで一駅という条件を生かし、参道での学習を計画した。 ・外国人観光客が多い時期の実施が望ましいと考え、6月に実施をした。 <p>【伝統文化体験(6年生)～牛馬作り～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区内に伝わる伝統文化を知り、引き継いでいこうとする心情を育むため、地域の方を講師として招き、体験学習を実施した。 ・授業の支援として保護者の協力を仰ぐことで、新興住宅地の住民に対しても地区の伝統文化を伝えられるように計画をした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から4年生までの国際交流学習において、それぞれ外部人材を活用しているが、さらに活動を充実させていくためには、中学生、保護者、地域、ALT等との連携を継続していくことが必要である。特に外国人との関わりを増やすために、新たな人材の開拓も必要である。 ・「牛馬作り」に関しては、講師として招いている地域の方の高齢化や児童の増加に伴う真菰の確保等が難しくなっているため、実施方法の検討が必要である。 ・高学年で行っている学校外での活動は、児童にとって有効であると考えるが、児童数の増加に伴い、外国人との関わりが減らないような計画が必要となる(場や時期)。また、安全面での配慮も重要となってくる。 ・オリンピック・パラリンピック教育を教科・領域にどのように位置づけていくか、さらに教育課程の見直しが必要である。 ・時間の確保が難しいと思われるが、外国の文化を知る、学ぶという機会を増やしていくことが望ましい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、今年度と同様に「おもてなし」、「グローバル」をテーマの中心に据え、取り組んでいく予定である。内容については、各学年で、工夫していきたい。

